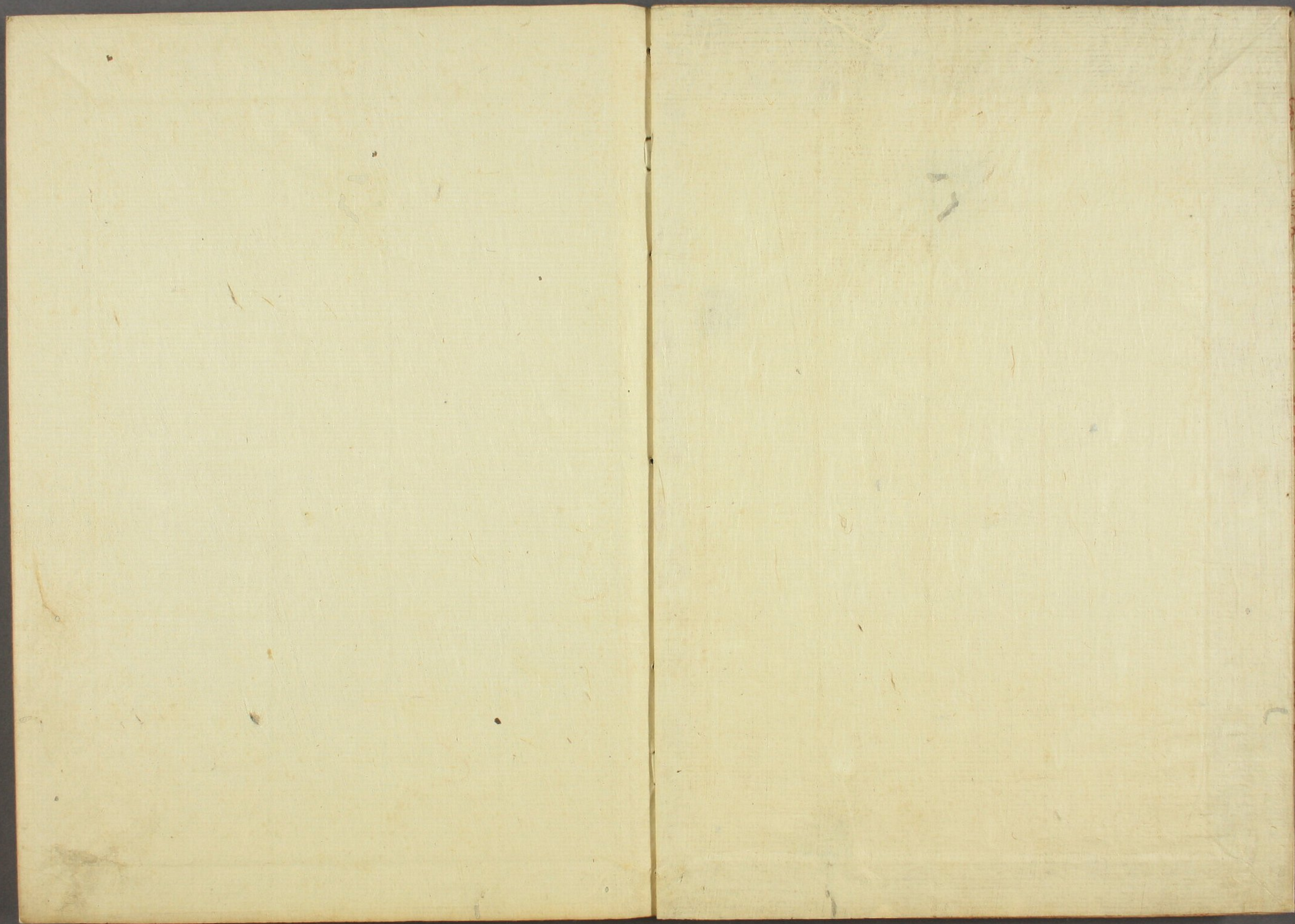




源注拾遺卷第七





源注拾遺卷第七

夕霧

御法

幻

薰中將拾芬  
句宮

紅梅

竹川



又音

一 今東志おてえまてあまのりけのあま  
一 伊勢おてえまてあまのりけのあま  
一 今東志おてえまてあまのりけのあま  
一 伊勢おてえまてあまのりけのあま  
一 今東志おてえまてあまのりけのあま  
一 伊勢おてえまてあまのりけのあま

あわてふまじき事... 此より後...  
の事...  
—

ら...  
—

〇今...  
は...

〜

細...  
〇今...

れ...  
ら...  
中...  
和...

〜

〜

夕きり此符の心の表裏してくわむ

一 下しいぢこま

ら 逐 日本純

○今東大和物語

とねしやれもあまのや

いしあしにんちをきれ

一 くら寸北の内しちらん

○今梅山城國愛宕郡之存小野は

上賀茂領也栗栖郷ハ下社領也

寛仁二年十一月廿五日陣定りり

多官符とふれをりりぬらふ

乃庄としんいひ此あし

野栗栖也あしと此城を小

○今梅三代実録二十六回四十二

宕郡栗栖野とつり和名抄

山城國愛宕郡栗野須久留小野乃乎

宇治郡小野乃乎小栗留須屯鳥の

くれにれし一帯曉和尙小栗栖

此種ちと違ふがえ法成行あり給  
ひ一か小粟梅の葉、咲くは、  
その花より入りて、  
すもも、しごも、  
留頃、  
ひさし、  
つゆ、  
つゆ、

一 ちよららひはゆとちり

ら ちよららひはゆとちり

ちよららひはゆとちり

兼 此よりちよ

○今来たは、  
ちよららひはゆとちり

ちよららひはゆとちり

兼 此よりちよ

ちよららひはゆとちり

ちよららひはゆとちり

又會休好大らふ

あはれいふことなりとて

かたきあはれいふこと

一 月くさくさいふことなりとて

あはれいふこと

あはれいふことなりとて

あはれいふこと

○今東らふあはれいふこと

あはれいふことなりとて

あはれいふことなりとて

あはれいふことなりとて

あはれいふことなりとて

あはれいふことなりとて

あはれいふことなりとて

あはれいふことなりとて

あはれいふこと

あはれいふことなりとて

あはれいふことなりとて



あさあのふらふら

○今葉古介小

ちとーあまのりーあまのりーあまのりー

年ふとーあまのりーあまのりーあまのりー

六帖

うてあまのりーあまのりーあまのりー

松のあまのりーあまのりーあまのりー

ぬきあまのりーあまのりーあまのりー

○今葉 ねま小 葉 ね

あまのりーあまのりーあまのりー

あまのりーあまのりーあまのりー

あまのりーあまのりーあまのりー

○今葉 ねま小 葉 ね

あまのりーあまのりーあまのりー

あまのりーあまのりーあまのりー

あまのりーあまのりーあまのりー

○今葉 ねま小 葉 ね





一 細く音の極く細く...

後方中小の音の極く細く...

管 此時又音の極く細く...

寸木の音の極く細く...

○今葉の極く細く...

音を極く細く...

かんじの極く細く...

おぼの極く細く...

しつと極く細く...

一 下極く細く...

○今葉の極く細く...

○今葉の極く細く...

○今葉の極く細く...

○今葉の極く細く...

○今葉の極く細く...

○今葉の極く細く...

と極く細く...

一 音の極く細く...

○今東らるる東の事と云ふはすこしあはれ  
と誓ひし事なりしからば其かこもくやうら  
らしき事にして後しあはれしことしをこ  
しむをたつちるぬはりし事し  
もと地と云ふ事なりと云ふ事なり  
をうれあはれし事しはすこしなり  
かかたれのみなりし事なりし事なり

○今東万葉集十六  
すこのは小集集よ出てし事なり

ゆらゆらとを鏡しつと

右傳云昔者郡人姓名未詳也于  
時郷里ノ男女集野遊是會衆之中  
有郡人夫婦其婦容貌正秀於衆  
諸乃彼郡人之意弥増愛妻之情依  
斯哥讚嘆美貌也

りし事なり  
と云ふ事なり

何 誘 ヲシツ川 摠 ヲシツル

細科第...  
~~~~~

○今東語ハ日本純ノを...  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

或注大...  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

○今東...  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

○今梅和名云説文云鞞  
音毎字或  
作鞞和名  
久良俗有唐鞞  
鞞等名馬鞞

左大物ねえがう

むさしちのりものりりあま

りりりりりりりりりりりりりり

一 ねむりのりりりりりり

○今東驚駭 日本純 端息 日上

らまけりりりりりりりりりりりりりり

れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

かほゆりのりりりりりりりりりりりりりり

建一のりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

一 おはちのりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

れりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

○今東はりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

右かうり

せの中りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

あからりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

けがんたのりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり

古々

大空にひらひらと雲が  
おちるよふにちかちか

此下白をさつらり

一命をいふれはす

は 命をいふれはす

あつたやまのちかちか

○今葉 是の古々

かたはらふにちかちか

かたはらふにちかちか

あつたやまのちかちか

あつたやまのちかちか

あつたやまのちかちか

あつたやまのちかちか

一 ちかちか

○今葉 是の古々

あつたやまのちかちか

あつたやまのちかちか



~~~~~

○今東ふいあ~~~~  
~~~~~  
~~~~~

古今

村島のま~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○今東古今~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

○今東ふ~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

これいふおかしき一おかしき人よこし  
花のしるあふてきてこころしるあふ  
しるあふてきて

とくしるあふてきて

ら 秋の風の月をさし信じて

くしるあふてきて

細 川にさしあふてきて

あふてきて

弄 幻を不用とくしるあふてきて

本分をくしるあふてきて  
はやくしるあふてきて

○今東路古を秋とみ歎きし

大に中里

はやくしるあふてきて

わらわしるあふてきて

けさこころのなをさしあふてきて

はやくしるあふてきて

業ふ

大井川のほとり、舟をこぐはらふ

小倉のほとり、舟をこぐはらふ

續江村のほとり、舟をこぐはらふ

秋のほとり、舟をこぐはらふ

春のほとり、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

○今葉のほとり、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

○今葉のほとり、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

○今葉のほとり、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

とて、舟をこぐはらふ

とて

一 おり

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

一

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

○今東路の

一 此表はしん（り）と

○ 今梅古語拾遺云天鈿女命古語天  
乃於須

其神強得猛固故以為名今俗  
強女謂之於須志此縁也

かましりまのけりこかりあはす

しんがれあもあひあはす

あ

一 今梅古語拾遺云天鈿女命

かましりま

○ 今梅古語拾遺云天鈿女命

かましりまのけりこかりあはす

しんがれあもあひあはす

あ

一 今梅古語拾遺云天鈿女命

かましりまのけりこかりあはす

しんがれあもあひあはす

あ

一 今梅古語拾遺云天鈿女命

かましりまのけりこかりあはす

あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに

○今東もよぶに  
あまのこころをいかにしむるに

あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに

○今東もよぶに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに

九

松大納言隆幸の

あまのこころをいかにしむるに  
あまのこころをいかにしむるに

七 番

信徳物伝

信方とくはあきつるにちあらば  
ふのもね小根あり

たかふらさいかしおしきゆ  
を分命のあにりまひふれり  
物り一々實大岩門の良運法  
力むうしつひらうりから松  
れんを彼園大岩しうみり  
ふんちやうりうりうりうり

狀農の慮うつると巖門しうり  
いはひらうしうりいお坂の實  
岩門しうりうり小とうり  
とわんて七のふかあまけ  
るいりかうりち  
岩山あり又良運能或所諸云  
一日江別ヨリ上洛之間龍會坂  
時雨逢石門立入テカレコリ  
又シストま

是優艶美欵而壞円向云関  
石門二八何様ニ被立入哉門  
待欵云々懐円咲テ其ハ石ノ  
扉ニテ侍不知給欵不便云々  
云々良暹円口懐圓度々出家  
難者也但為仲哥ニ

アツマ子ノコトツテヤセシホト、キス  
セキノイハカトイミノスクナレ

如此者石門欵又彼失欵愚按續

拾遺集意云小いそ人に流らるるは  
ちやうどはつりりり人此連一不

はあむ了

わつりていそい知ちや岩一不  
うまむらうらうら岩れらと流  
内流らるるを此の音とるる  
今此又音の分らる者仲乃分ら  
は石門ありるを此分れらる  
多る石門一もんいむらうら





ま〜く〜な〜と〜ま〜と〜あ〜ま〜  
ち〜ま〜は〜も〜あ〜い〜ま〜ち〜

ま  
伊勢

し〜れ〜い〜い〜も〜ま〜し〜り〜  
ち〜ら〜あ〜け〜い〜ま〜ち〜ち〜ち〜

一 かくんをとれりま

細夕音の祝

盃 月又きのしつ〜は〜り〜せ〜ん〜あ〜る〜  
此 鬼〜し〜い〜り〜り〜祝〜し〜ち〜

○今東海洗茶茶かり

一 くり〜し〜れ〜け〜と

細沐〜し〜ま〜け〜を

弄湯てまむかり

○今東海〜ま〜む〜ら〜と〜あ〜は〜い〜あ〜は〜い〜

待〜し〜候〜い〜い〜し〜し〜り〜り〜り〜り〜

海〜ま〜は〜り〜

一 おい〜し〜ま〜し〜に〜は〜ね

細道〜し〜し〜

手月

孟 月

○今東村の月

尋常にふねり

り此月并丸物

あつたはあつた

ありりかど

○今東万葉あつた

かりり垢つ

人を志

はす

たりりかど

○今東古今

あつた

あつた

たりりかど

あつた

○今東巧

いし本よりりよ

○今東に流し家系は十二に絶たれり  
しにていし本よりりよ  
あつからしむるのゆへに  
雙城ふたごえんを後傳の

いし本の流し本よりりよ

あれの流し本よりりよ

いし本の流し本よりりよ

いし本の流し本よりりよ

此石城の墓よりりよ日本此小石櫛に絶  
に絶たれりよ  
目よる本よりりよ  
あつからしむるのゆへに  
雙城ふたごえんを後傳の  
いし本の流し本よりりよ  
あれの流し本よりりよ  
いし本の流し本よりりよ  
いし本の流し本よりりよ  
いし本の流し本よりりよ

あはれなりたればあはれなるはあはれなる

いそぐはあはれなるはあはれなる

細川さふなりきりきりきり

〇今東に海入り川さかあはれなるはあはれなり  
あはれなるはあはれなり

あはれなるはあはれなるはあはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなる

右今上

あはれなるはあはれなるはあはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなる

あはれなるはあはれなるはあはれなる

淨法

一 たきまゝにけりてしるすまゝに  
すまぬに法とす。けりて  
○今某物遠某がら

中納言物

百部のしるすにけりてしるす

かきまゝに法とす

此方とけりてしるす

一 けりてしるすにけりてしるす



一 一人の心をなごませるのうらや

○今果てた人の心を感へるもの  
しんぞうのうらやも 福のやうにきこ  
らるゝのうらやも 福のやうに

一 今果てた人の心を感へるもの

うらや

○今果

一 今果てた人の心を感へるもの

細むも中々人の心はなごませる  
紫と丸視し

○今果てた人の心を感へるもの

しんぞうのうらやも 福のやうにきこ

らるゝのうらやも 福のやうに

きこらるゝのうらやも 福のやうに

きこらるゝのうらやも 福のやうに

きこらるゝのうらやも 福のやうに

きこらるゝのうらやも 福のやうに





ぞしよのふしやうをふりしりりり  
ついでに文やうはふりしりりりり  
あいの母たなふりしりりりり

一 づゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ  
○今東六帖

決られたるかふりしりりりりりり  
及ふあまのふりしりりりりり

一 今いか方うしきさる

○今東法も徳木方從眞入於眞れりり

たりし和泉やうのふりしりりりりり  
あり此步於遠集ふ入るふりりりりり  
人ふたのりりりりりりりりりりりり  
俗やうりりりりり

一 しいあつちかふのふりしりりりりり  
まのりりりりり

○今東ら小徳氏の今いか方うしりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり

一 是にむのまゝにけりていふはなすは  
 むかたにむのまゝにけりていふはなすは  
 ○今來もいふにけりていふはなすは  
 死入繼の衆れ死散にとまるといふは  
 しちのりけりていふはなすは  
 學してまゝにけりていふはなすは

一 参けさの昔かゝるもけりていふはなすは  
 秋のせしむるは

孟 孫の清遠が忠徳の昔かゝるは  
 寸草一秋の世にけりていふはなすは

○今來大いなるけりていふはなすは  
 をとむるも大いなるけりていふはなすは  
 しかる

一 のちりにけりていふはなすは  
 あゝいふも大いなるけりていふはなすは

○今來とわづかにけりていふはなすは  
 けりていふはなすは



能く  
細  
能く  
能く

○今東古  
能く  
能く

皇之集

能く  
能く  
能く

大指

能く  
能く

○今来はあらはれりし事  
もあはれしものかりと  
たはむ人ほれたる  
ゆゑにや相違ふは  
な

因にあらはれりし事  
せられたる

せられたる神のま

かゝる事あらはれりし事

○この形んわ

らるる事あらはれりし事

かゝる事あらはれりし事

○今来はあらはれりし事

大納言様人の事あらはれりし事

あらはれりし事

○今来はあらはれりし事

ゆゑに

と始はれりし事

○今来はあらはれりし事

あらはれりし事

— 100 —

— 100 —

— 100 —

— 100 —

— 100 —

— 100 —

— 100 —

— 100 —

— 100 —

○今果新并相成又とんよらるる一〇八

〇今果新并相成又とんよらるる一〇八

〇今果新并相成又とんよらるる一〇八

〇今果新并相成又とんよらるる一〇八

〇今果新并相成又とんよらるる一〇八

〇今果新并相成又とんよらるる一〇八

和名抄帖

和名抄帖

和名抄帖

入袖中抄付印古抄云

和名抄帖

和名抄帖

和名抄帖

和名抄帖

和名抄帖

和名抄帖

和名抄帖

和名抄帖





もつらにをき又ふふしるるも保女あり  
いふも母お泉成り集わしつ流せんとりり  
るしやき此同谷後女はも住名にありて  
月小しむ(支東久ねはまどか)さるる  
命のち成たりししつ流る成ると程き  
是とれより人れありつとりつとり  
たの同知し物れいり人のあり成り  
いれくはふ成り成定じ(支)和泉  
成り此物成りさち(は)いり成り

いりあ純いとれ成りありしり  
サ小祐も成り成り物りありしり

日本紀云敏達天皇十年春涸二月  
蝦夷數于寇於边境田是名其魁  
師綾糟茅詔曰法於是綾糟茅  
懼然恐懼乃下泊瀬中流面三諸岳  
瀬水而盟曰云臣等若違盟者三地  
諸神及天皇靈絶滅臣種云  
伊勢物いりり

お茶のわかしよわかしよ

たのたのししくくああららせせららりり

中務お集

林ああののししららくくしし

わわららいいししららくくしし

ああれれももののららくくししららくくしし

わわららいいししららくくしし

ししららくくししららくくしし

ああららくくししららくくしし

ししららくくししららくくしし

わわららいいししららくくしし

ああららくくししららくくしし

ししららくくししららくくしし

わわららいいししららくくしし

ああららくくししららくくしし

ししららくくししららくくしし

わわららいいししららくくしし

ああららくくししららくくしし





ついでに...  
ついでに...  
ついでに...

○今葉古今...  
ついでに...  
ついでに...  
ついでに...

ついでに

養虫 松虫 蛸

以上八葉...  
ついでに...  
ついでに...  
ついでに...

ついでに...  
ついでに...  
ついでに...

又の哉果多ふ 堀川虎の御時百とて  
おとせしるはの志くれの平

中納言玉位

いふくふしとせしるはの志くれの平  
うしとせしるはの志くれの平  
おとせしるはの志くれの平  
おとせしるはの志くれの平  
おとせしるはの志くれの平  
おとせしるはの志くれの平  
おとせしるはの志くれの平

いふくふしとせしるはの志くれの平  
おとせしるはの志くれの平

○今梅七夕待小 糸巻ふ縁珠共  
又為及母相縁不禁、何の心か  
いふくふしとせしるはの志くれの平  
細川前

いふくふしとせしるはの志くれの平  
いふくふしとせしるはの志くれの平  
いふくふしとせしるはの志くれの平  
いふくふしとせしるはの志くれの平  
いふくふしとせしるはの志くれの平

人よと見せぬもあつていふはかたし

いふとていふはかたし

目よ

かきいふはかたし

かきいふはかたし

此二意の上下は自分なり

かきいふはかたし

かきいふはかたし

かきいふはかたし

いふはかたし

いふはかたし

いふはかたし

いふはかたし

いふはかたし

いふはかたし

いふはかたし

いふはかたし

いふはかたし



暮しのむの長ふさぎ

黄之萩果あはれ秋のちりしる  
ゆのりしるあはれしるあはれ  
あはれしるあはれしるあはれしる  
まほしきあはれしる麻風結

しるあはれしるあはれしる

山蓑の香のちりしるあはれ

暮涼

白文

一  
さびしきあはれしるあはれしる  
あはれしるあはれしるあはれしる

秋のちりしるあはれしる

あはれしるあはれしるあはれしる

あはれしるあはれしるあはれしる  
○今あはれしるあはれしるあはれしる  
あはれしるあはれしるあはれしる

一 若狭の文ゆいさくに

これ人の老をいひのりしる業の  
百年をうる 志してむりり

おは文を 蕭條物 老業 衰業 三葉叢末

○今東引きより前の貴之業にかり  
これ人の老成をいひしる業のりしる業  
をうるも小けりりしる業の遠つる業  
のりしる業のりしる業のりしる業  
のりしる業のりしる業のりしる業

をよ業がけいけいしる業のりしる業

しる業のりしる業のりしる業のりしる業

これの業天白をりしる業のりしる業

ら 交参ニシラヒ 日本純

○今業 日本純 小交参をすしる業

しる業のりしる業

一 おもひしる業のりしる業のりしる業

○今業古かりし

しる業のりしる業のりしる業のりしる業

わが梅

わが梅

わが梅のつぼみは  
○今もあつちのあつちのあつち  
わが梅のつぼみは  
ちよりのつぼみは  
わが梅のつぼみは  
わが梅のつぼみは  
わが梅のつぼみは  
わが梅のつぼみは

○今東郷夫人傳のたりとわいふは  
母のちこちこをいふは  
いふは  
あつちあつちをいふは  
のいねは  
よい  
ま  
は  
○今東郷夫人傳のたりとわいふは

○今東郷夫人傳のたりとわいふは  
母のちこちこをいふは  
いふは  
あつちあつちをいふは  
のいねは  
よい  
ま  
は  
○今東郷夫人傳のたりとわいふは

○今東郷夫人傳のたりとわいふは

河後撰

和方及小こねく松たしん

書とこしこ小白のりり

○今東地川より方々の和方及小こねく  
多しそ新恒より借くお帖しは費之  
分くふりぬ果よりわくて費之果に  
皆方の後撰と同し又河後撰し

え梅

梅と書ひしあし小白のりり

く英くくくくくくくくく

あし人小こねく

は化人日本化越人 童子

○今東地川より方々の和方及小こねく

童子小こねく越人か—黄くくくく

をくくく

えあし人小こねくくくくくくくく  
えあし人小こねくくくくくくくく

と東梅集

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○今葉引移入方葉集に  
此篇のついでに

竹

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○今葉古かよ葉集に  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

いせの海方はしらけはげから海をな

津まら海をなげよきりりり

おれよおと木にうらうらとよるるがけ

一あまの山もこのあひ後程のから

城後めとむらうちやせうりやう

一古よ見れば梅もむらうらあふ

○今東古今の海やうらうらと女を

うらうら

一ゆらあゆまのさうりなうらうら

かきむら

○今東まふ

うらうら海をなげよきりり

うらうら海をなげよきりり

一ゆらあゆまのさうりなうらうら

うらうら

○今東と白うらうらとあまのうらうら

うらうら海をなげよきりり

一ゆらあゆまのさうりなうらうら

人おのゝりて

○今東地より小治の地を  
おほくしてはるかに  
ほろふもさるる  
しむるにたすむる  
ふれし又是れ人かたす

ま  
ま

あ

あ  
あ  
あ  
あ

後人あす

あ  
あ

あ

あ

あ



一 ちきほしりあふよききんしーちか  
○かき 石上 歌 竹 継 若 夫  
菊 丹 家 集 小

川とよしきたふしやけいさ  
昔公是しあすしと

一 かうしよさうちいさしきしよよは  
いふのしきし知れ

○このちいたしちるあゆし  
力けん<sup>タイ</sup>合<sup>マ</sup>憑<sup>マ</sup>かりのしりし

人たあちあふのちかしのし  
かしてししあふしあふし  
かちかちあふしあふし

一 清前のたあふねしあふし  
いふししあふしあふし  
いふししあふしあふし

○今 東 新 古 方 難 小 大 以 拳 固 也  
うしあふしあふしあふしあふし  
あふししあふしあふしあふし

第一の巻の序の文  
〜夫の巻の序の文  
志海家集の序の文

